

東京大学史料編纂所特定共同研究シンポジウム

長篠・設楽原の戦いを考える

■報告

第1部 (13:10~14:40)

武田氏にとっての長篠・設楽原の戦い

東京大学史料編纂所教授 鴨川達夫

織田氏にとっての長篠・設楽原の戦い

東京大学史料編纂所准教授 金子拓

徳川氏にとっての長篠・設楽原の戦い

首都大学東京准教授 谷口央

第2部 (14:50~16:10)

合戦図屏風から見た長篠・設楽原の戦い

茨城大学教授 高橋修

近世軍記から見た長篠・設楽原の戦い

中京大学教授 柳沢昌紀

戦場景観から見た長篠・設楽原の戦い

設楽原歴史資料館主任学芸員 湯浅大司

■パネルディスカッション (16:30~17:20)

コーディネーター

愛知大学教授 山田邦明

パネラー

上記報告者

平成28年2月21日(日)

13:00~

新城文化会館 小ホール

入場無料

主催：東京大学史料編纂所・新城市・新城市教育委員会

お問合先：新城市設楽原歴史資料館

TEL 0536-22-0673

e-mail shitara@city.shinshiro.lg.jp

長篠合戦図屏風(犬山城白帝文庫蔵)

長篠・設楽原の戦いを考える

東京大学史料編纂所は、古代から明治維新时期に至る日本史を研究する研究所です。国内外に所在する様々な史料を収集、研究し、これらを『大日本史料』などの史料集として刊行しています。以降、100年以上にわたって、日本史研究をけん引してきました。

史料編纂所は、2009年に文部科学大臣より、「日本史史料の研究資源化に関する研究拠点」として認定されました。

この研究拠点が実施する特定共同研究の一つとして、2010年度から【合戦の記憶をめぐる総合的研究—関連史料の収集による長篠合戦の立体的復元—】が開始され、新城市も全面的に協力してきました。

その調査の対象は長篠や設楽原だけでなく、奥平家の居城であった大分県中津市や、熊本県熊本市（細川家）・徳島県徳島市（蜂須賀家）・鳥取県鳥取市（池田

家）・山形県米沢市（上杉家）など日本全国にわたりました。

長篠・設楽原の戦いとは、どのような戦いであったのでしょうか。これまで語られてきた戦いの姿は真実のものであったのでしょうか。これまで取り上げられることの少なかった史料などにも光をあて、6年にもわたる調査研究の結果、戦いの新しい姿が見えてきました。

こうした調査研究の成果の一部は、新城市の『広報ほのか』で「歴史秘話—長篠・設楽原の戦い」として3年間にわたり連載され、昨年刊行された『古戦場は語る—長篠・設楽原の戦い』のなかで示されています。

今回、長篠・設楽原の戦いが行われた地である新城市で、特定共同研究に参加したメンバーが、それぞれの専門分野による発表を行い、戦いの歴史的意義について討論を行います。

落合左平次道次背旗（鳥居強右衛門磔図）の修復活動



（表面）



（裏面）

今回の特定共同研究の大きな成果の一つとして、東京大学史料編纂所が所蔵している「落合左平次道次背旗」の研究・修復があります。俗に鳥居強右衛門磔図として知られているものです。この旗はもともと戦場における旗指物として使われていましたが、明治に入ってから軸装され、近年に至っていました。

しかし表具や旗本体に傷みが見られるようになったことと、今回特定共同研究において様々な検証を行った結果裏側にも同様の姿が描かれている可能性が高くなったため、軸装を解体したところ、裏側の姿も確認されました。そこで調査・修復のうえ、旗指物本来の姿である両面が見られるような保存が行われることになりました。